特定非営利活動法人HUG for ALL 2026年度事業計画書

事業年度：2026年4月1日〜2027年3月31日

項目	内容
法人名	特定非営利活動法人HUG for ALL
代表者	代表理事　村上 綾野
所在地	東京都新宿区新宿5-11-30 新宿第五葉山ビル3F
ミッション	自分への信頼を育み、社会への信頼を育む

1. 基本方針

2026年度は、ミッション「自分への信頼を育み、社会への信頼を育む」の実現に向けて、事業を3つの柱で展開します。

1. **こども向け事業**：新プログラム体系を本格稼働させ、こどもの「自分への信頼」を育みます。
2. **おとなの信頼を育む事業**：HUGフレンドをはじめとするおとな自身が、自分への信頼と社会への信頼を育む場をつくります。
3. **信頼できる社会を育む事業**：社会的養護の認知拡大・啓発と施設職員の支援を通じて、こどもを取り巻く社会の基盤をつくります。

あわせて、ソース原理にもとづく組織の自律分散化と、財源確立のためのファンドレイズ計画の立案・推進を、事業と並走する重点課題として進めます。

2. 重点実行項目

今年度、最優先で取り組む項目は次の3つです。

1. **施設包括支援モデルの構築**：新プログラム・新担当制・大人のまなびに、居場所づくりと施設職員支援を加えた「包括支援モデル」を構想します。新たに実施した取り組みを検証しながら、次の活動の準備を始めます。
2. **組織移行**：HUG for ALLを前に進む組織にする意志をもって、報酬のあり方を根本から見直し、ソース原理にもとづく自律分散型組織の運営を開始します。初年度として、みんなで学び合いながら、HUG for ALLらしい運用のあり方を考えて進めます。

3. **ファンドレイズ**：数年先を見据えたファンドレイズ計画を立案し、当面の活動資金は助成金で確保します。また、活動開始10周年と居場所開設に向けたクラウドファンディングを実施し、寄付者の基盤を広げます。こどもとの活動に影響が出ない財政基盤を整え、今後の発展に向けた資金調達の準備を進めます。

3. 事業1｜こども向け事業

都内2か所の児童養護施設で、在所中のこどもと退所後の若者、計52名とかかわります。

施設	小学生	中高生	退所後	合計
八王子市（高尾）	15名	12名	7名	34名
清瀬市	9名	9名	—	18名
合計	24名	21名	7名	52名

八王子市（高尾）

おもしろラボ（小学生）

新プログラムへの全面移行期間です。体験・探求を軸にしたプログラムを新しくつくりながら走るフェーズとして、こどもの反応を見て毎回ふりかえり、柔軟に調整します。外部団体・企業とのコラボを積極的に開拓し、こどもたちが「社会とつながる」体験を広げます。

時期	主な活動予定
6月	インプロ（コモンビートとのコラボ）
7月	複数企業による出展型体験企画
8月	自由研究
9〜10月	遠足の準備と遠足
11〜12月	製品づくり企画と製品づくり
2027年1〜2月	外部コラボ（敬天愛人／Bistro GRASSO／仕事博物館を予定）

じぶんラボ（中高生）

自己探求と社会への接続をテーマに、こども自身が自分の「やりたい」をプロジェクトとして実現していく新プログラムへ移行します。今年度は、中高生向け自己探求キャンプ（日帰り・場所を変えて）のトライアル実施にも挑戦します。

くらしラボ（退所後の若者）

2025年度の「クエスト事業（退所編）」を引き継ぎ、2026年度から「くらしラボ」として名称・体制を刷新します。代表理事から他スタッフへのソース継承を重点課題として進め、2027年度に対象者が10名を超えることを見据えて、安定した運営体制を確立します。新たに退所する若者については、施設職員の方々と連携しながらサポートのあり方を検討します。

清瀬市

あそびラボ・あそびクエスト（小学生）

代表理事から他スタッフへのソース継承を進め、安定した運営を継続します。次年度以降、クエストのまま続けるかラボへ移行するかを、今年度中に施設と検討して決定します。12月には外部講師を招いたプログラムも予定しています。

はたちクエスト（中高生）

担当スタッフへのソース継承が進んでおり、安定した運営の継続が課題です。次年度以降の方向性（ラボへの移行の有無）もあわせて検討します。

高尾 居場所開設準備プロジェクト（新規）

高尾駅と八王子市の施設の間にある物件を、団体事務所兼こどもの居場所として活用する準備を今年度から本格的に始めます。不動産会社・大家・施設からはすでに好意的な反応を得ており、今年度中に判断・実施を進めます。

時期	内容
7月	居場所づくりプロジェクトチームの募集開始
8月	プロジェクトチーム結成、事務所利用開始
9月〜	居場所のイメージづくり、居場所づくり実践者へのヒアリング等

あわせて、法人の手続きを整備します。

- 賃貸契約の法人名義への切り替え
- 事務所所在地の変更に伴う定款変更（総会決議）、所轄庁への届出、法人登記の変更
- 家賃負担の可否確認と費用計画
- 事務所設備の整備など、開設に必要な諸手続きの整理

4. 事業2｜おとなの信頼を育む事業

HUGフレンドをはじめ、こどもにかかわるおとな自身が「自分への信頼」と「社会への信頼」を育めるよう、学びと対話と交流の場をつくります。

HUGフレンド向け施策

施策	内容
信頼を育むダイアローグ	年4回開催（対面2回・オンライン2回）。HUGフレンド全体の対話の場
HUGゼミ	月1回程度。こどもの理解とかかわり方を深める学びの場
担当同士のランチ会	同じこどもにかかわる担当者同士の交流（費用は団体が負担）
Slackでの交流	こども担当ごとのチャンネルでの日常的なつながり

サポーター向け施策

「HUG for ALLの日」（年1回）を継続して開催します。HUGフレンド・サポーター・外部の方々が集まり、活動と思いを共有する年次イベントで、2026年2月には約40名が参加しました。

5. 事業3｜信頼できる社会を育む事業

社会的養護の認知拡大・啓発を軸に、HUG for ALLが社会にひらかれた存在として発信・連携していく事業です。3つの柱で展開します。

柱①　情報発信（HUGノート・あややノート）

note・SNSでの継続発信を通じて社会的養護への理解を広げ、HUG for ALLを支えるサポーターとのつながりを育みます。

- HUGノート（活動報告）と、あややノート（代表ブログ）を継続して発信します。
- 読者が「知る」から「かかわる」へ動けるような発信を意識します。

柱②　イベント出展・社会発信

活動と思いをより広い社会へ届けるため、イベントへの出展や登壇に積極的に取り組みます。

時期	内容
2026年5月	BigForest 教育イベント出展
2026年10月	八王子NPOフェス出展
随時	代表理事による企業向け講演

柱③　施設職員・社会との連携（新規トライアル）

児童養護施設で働く職員を支援することで、こどもたちを取り巻く環境そのものを底上げします。今年度は2つのトライアルを実施し、有効性を検証します。

トライアルA｜若手職員の離職防止サポートAIの検証

若手職員の早期離職は、こどもが安心できる環境を損なう構造的な課題です。武蔵野大学の研究をベースに、若手職員の離職防止を支援するAIのプロトタイプを開発しています。今年度は施設と連携した実証実験を行い、有効性を確認します。

トライアルB｜学生ボランティアから施設就労へのルートづくり

HUGフレンドとして施設にかかわった学生が、卒業後に施設職員として就職できるルートを整えます。施設の採用課題の解消と、志のある人材の輩出を同時にめざします。今年度は提携先（施設・大学等）を確定し、ルートの設計と試行を行います。

6. 事業横断｜組織づくり・事業基盤

① ソース原理にもとづく自律分散型組織への移行と新制度の開始

本気で前に進む意志を持った組織にするため、報酬体系・制度を見直し、サークル・ロール形式の組織へ移行します。

- 役員報酬およびコアスタッフ（TeamSS）への報酬のあり方を見直し、3か月ごとにメンバー間で相談して配分するしくみを導入します。
- TeamSS向けにホラクラシー研修を実施します。
- 団体内のクリエイティブフィールドを定義し、ソース継承を進めます。
- 既存スタッフの主体的なまなびを支援し、チームビルディングを行います。
- 必要に応じて新スタッフの採用とオンボーディングを行います。

時期	内容
6〜8月	TeamSS向けホラクラシー研修（全5回）、業務の洗い出しとタスク分担の整理

時期	内容
7〜8月	団体内のサークル構造の定義、サブソース（サークルリード）のアサインと権限委譲
7〜12月	代表理事が「ソース原理×ティール組織」研修を受講
秋〜冬	スタッフ合宿
秋以降	サークル・ロール形式への組織移行、サブソースによる自律的な業務推進

② 財源確保の基盤固め

- 外部メンバーも参画するチームで、ファンドレイズ計画を立案・推進します。
- 当面の財政課題に対応するため、年間800万円規模以上の助成金獲得をめざして申請を進めます。
- 活動開始10周年と居場所開設に向けたクラウドファンディング（目標1,000万円）を実施し、寄付者を増やします。
- NPO法人サービスグラントとSMBCのプロボノプロジェクトにより、法人寄付・協賛に向けた営業資料を作成します。
- パンフレット・Webなど広報ツールの改訂準備を始めます。
- 八王子の地元ネットワークを形成します。
- HUGフレンド・スタッフ・既存サポーターのつながりを生かした個人サポーター施策を、ファンドレイズ計画の中で設計します。

③ バックオフィス・ガバナンスの基盤固め

- 副代表理事が事務局長に就任し、事務局体制を強化します。
- バックオフィス業務に精通した新スタッフの参画を進めます。
- ガバナンス強化のため、6月に監事を1名増員し、2名体制とします。

④ 広報・採用

- note・SNSでの継続発信（HUGノート・あややノート・活動報告の3シリーズ）を行います。
- HUGフレンドの年度限定募集を夏〜秋に実施します（目標15名）。
- おもしろラボ（7月18日開催）に企業を招待し、関係を開拓します。
- Webとパンフレットの改訂準備を進めます。